日本とベトナムのつながり

Viet Nam

望月 敦子
山梨県中央市立田富北小学校

●担当教科：全教科
●実践教科：特別活動
●時 間 数：4時間
●対象生徒：小学校1年生
●対象人数：22人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「日本とベトナムのつながり」

1年生の児童の多くにとって，生活の中心は自分であり，自分が日本という国に住んでいるということや外国の存在を実感していない児童が多い。そこで，まずは，ベトナムの生活や文化を紹介し，日本との相違に気づき，「おもしろいな。」「もっと知りたいな。」というように，ベトナムを通して異文化に興味をもたせたい。そして，活動を通して，自分たちの住んでいる日本がどのようにベトナムとつながっているのかを知り，世界の中の日本についても知るきっかけとなるようにする。

〔2〕授業の構成

<教科名：特別活動>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限目 ②ベトナムってどんな国？ ③「世界」「国」について知り，ベトナム（異文化）への興味をもつ。	①世界地図で日本の位置を確認した後，ベトナムはどこにあるのか確認する。 ②写真やクイズでベトナムの文化や生活を知る。	①世界地図 国旗（日本，ベトナム） ②写真資料（パワーポイント）
<児童・生徒の反応>	・日本がどこにあるのかを知らない児童もいたが，日本の国旗はほぼ全員が知っていた。いろいろな国の名前を知っている児童も数人いた。しかし，その国がどこにあって，どんな文化があるというものではなく，聞いたことがあるとか，有名なサッカー選手がいるという程度の認識であった。 ・クイズでは，一喜一憂しながら，ベトナムの文化や生活の様子について知ることができた。日本と似ていることが多く，驚いたようである。 （米を食べる・箸を使う等）	
①2時限目 ②ベトナムの生活の様子をのぞいてみよう。 ③ベトナムについて知り，ベトナムと日本の相違点に気づく。	①簡単なベトナム語のあいさつのしかたを知る。 ②パワーポイントを使い，研修で撮影した写真を活用し，ベトナムの生活習慣や風習を知る。	①写真（食事・乗り物・町並み・家の様子・学校の建物） ②アオザイ ③現地で購入した生活用品
<児童・生徒の反応>	・教師がアオザイを着て登場すると，子どもたちの学習意欲がぐっと高まったのを感じた。 ・前時で，大まかなベトナム紹介をしていたので，写真が変わるたびに子どもたちから「これは，この前見せてくれた場所。」「これは，田んぼかな。」等の反応が返ってきた。 ・写真に写っている物（バイクに乗っている人たちが付けているマスク・ベトナム語に翻訳された日本の本・楽器等）を実際に見せたりすると，やはり子どもたちの興味を引きつけることができると感じた。 ・ベトナムの道路をたくさんのバイクが走っている様子や，バイクに3人・4人乗りしている様子は，子どもたちにとって驚きだったようである。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①3時限目 ②「つながってるね。ベトナムと日本」 ③ベトナムの抱えている課題に対して，日本がどのような支援をしているのかを知る。	①フォトランゲージ ②フエ水道公社に対する，横浜市水道局の技術協力について紹介する。 ③交通安全人材育成協力や日本が支援している病院の様子について紹介する。	①教師が水道の蛇口から水を飲んでいる写真 ②バイクがたくさん走っているベトナムの道路を写した写真 ③チョーライ病院の写真
<児童・生徒の反応>	・水を飲んでいる写真を見た子どもたちからは，「どんな味がした?」「おいしい水を飲んでいるの?」と言った反応が多く返ってきた。日本にいると当たり前の行動なので，なにか特別な水に違いないと思ったようである。誰もが安全な水を水道から得られる訳ではないベトナムの現状や，横浜市水道局の協力によって安全な水が飲めるようになってきていることを話すと，子どもたちからは「かわいそう。」「日本の人たちがもっとたくさんの水道を作ってあげればいいのに。」等の意見が出た。また，「困っている人がいたら助けてあげる，そうすると自分が困ったときにも助けてもらえるよ。」といった意見を発表する子どももいた。 ・たくさんのバイクが走るベトナムの都市の交通状況から，「交通事故が多そう。」や「二人乗りや三人乗りが危ない。」「道路を広くすればいい。」「信号をつければいい。」といった意見が出てきた。日本人が交通安全のためや病院運営に協力している様子を紹介すると，「日本の人が頑張っていて，うれしい。」等，1年生なりに「日本って良い国だな。他の国のために頑張っていて，優しい国だな。」と誇りをもったようである。	
①4時限目 ②学校にいくために働いている子どもたち ③学校にいく意味について考え，自分自身を振り返る。	①ベトナムの子どもたちが作ったビーズアクセサリーを通して，生活・学資のために働く子どもたちの様子を伝える。 ②実物のビーズアクセサリーに触れ，その意義について考える。 ③自分自身の生活を振り返り，自分たちは何をするべきか考える。	①ビーズアクセサリー ②子どもたちがビーズアクセサリーを作っている写真
<児童・生徒の反応>	・初めにビーズアクセサリーを見たときは，「かわいい。」「ハートよりクマのほうがかわいいな。」といった反応だった。 ・誰が作った物なのかを伝えると，「何で子どもがこんなに上手に作れるの。」「なんのために作っているの。」といった質問が出てきた。 ・1年生なりに，このビーズアクセサリーが特別な意味を持っている物だと感じたようで，「かわいそう。」「「大人になったら，ベトナムに行って，これをいっぱい買ってあげよう。」「同じ子どもで，こんなにすてきな物を作れるなんてすごい。」「ぼくも頑張ろう。これをお守りにしよう。」などの発言が出た。「かわいそうだな。」という感想で終わるのではなく，自分たちが恵まれた環境にいることを実感し「これからはこんな風に生活していこう。」と自分なりに考える機会になったようである。	

〔3〕詳細説明

単元名：「つながってるね。ベトナムと日本」

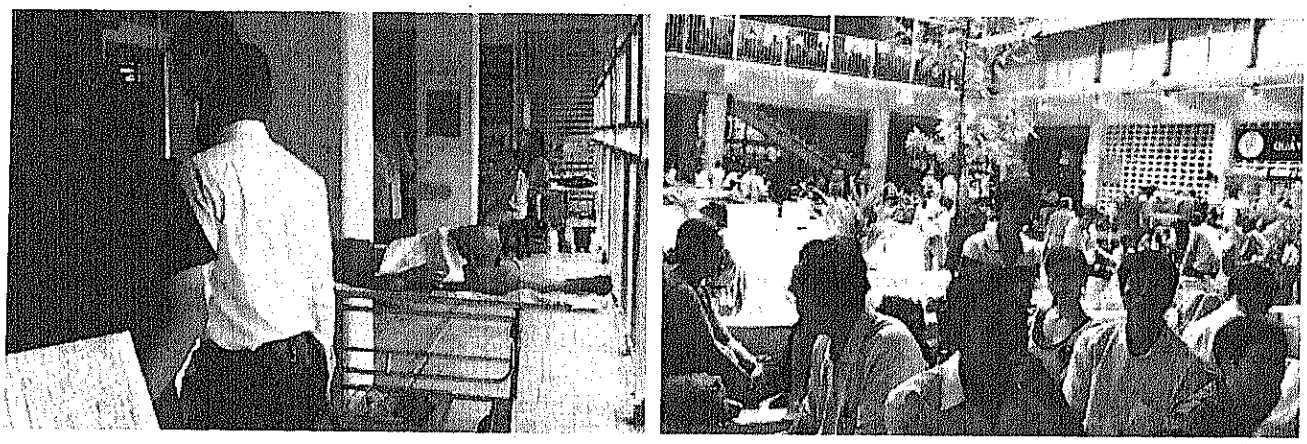
学習目標：ベトナムの抱えている課題に対して，日本がどのような支援をしているのかを知る。

	学習活動	留意点	時間
導入	1　フォトランゲージ ・「これは何をしている写真でしょう。」 ・「なぜ，水を飲んでいるところを写真にとったと思いますか。」	 【使用した写真】 ・あまり時間をかけすぎないようにする。	5分

展開	1 写真の説明をする。 2 自分たちはどんな時に水を使うのか考える。 ・班になり，5分間でできるだけ多く考える。 3 水道から安全な水が出なかったり，水道がなかったら，どうなるか考えてみる。 4 フエ水道公社に対する，横浜市水道局の技術協力について紹介する。	・なかなか思いつかない班には，自分たちの生活を振り返るような声かけをする。 ・自分たちの書き出した項目と照らし合わせるように指導する。	15分
	5 ベトナムにおいて，日本が他にはどのような協力をしているのか紹介する。 ・交通安全人材育成協力 ・日本が支援している病院の様子	・写真を見せながら，問題点を全体で押さえてから，どのような支援・協力をしているのか，分かりやすく説明する。	15分
まとめ	1 子どもたちの感想 2 学習のまとめ（望月）	・ベトナムに対してマイナスイメージばかりをもってほしくないので，国と国のつながり・国際協力を中心とした話をする。	10分

＜使用した写真の例＞

【ホーチミン・ハノイ市内の道路】



【チョーライ病院の様子】

〔4〕成果と課題

ベトナムについて知ることで，異文化に興味をもち，世界に目を向けるきっかけになった。1年生の発達段階において，理解するには難しい内容も含まれていたと思うが，1年生なりに，“自分たちが周りの人たちとつながって協力して生活しているように，国と国もつながっていて，協力し合っていくということが大切だ”と感じていることが，感想などから伝わってきた。

また，今自分が恵まれた環境にいるということに気がつくことができ，自分にできることは何なのか，こんなことを頑張っていきたいと考える意義のある活動であった。

その一方で，ベトナムに対して「かわいそう。」といったマイナスのイメージを大きくもっている子どもがいることも確かである。その表層的な理解から一歩踏み込んだ理解へと導いていくために，今後も引き続き，国際協力や異文化に触れたり考えたりする機会を設けていきたい。

〔5〕参考資料

・「目で見る世界の国々27 ベトナム」 メアリーM．ロジャース、国土社、1995
・「平成19年度　教師海外研修　授業実践報告集」JICA 地球ひろば、2008
・独立行政法人国際協力機構（JICA） ＜ http://www.jica.go.jp ＞
・横浜市水道局　＜ http://www.city.yokohama.jp/me/suidou/ ＞
・フエ　ハッピープロジェクト　＜ http://huehappyproject.seesaa.net/ ＞

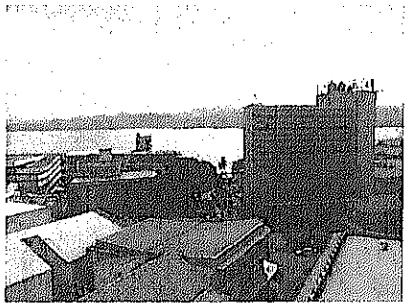
【フィジー　コース】

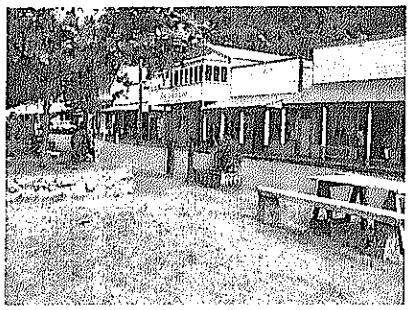
平成20年度教師海外研修　フィジー海外研修日程

テーマ：環境問題への取り組み

月日	時間	日程	ねらい・キーワード	宿泊
7月31日 木	PM	成田空港集合 ✈成田発（19：00）⇒	移動	機内
8月1日 金	AM	⇒ナンディ着（8：20） 借上バス・ナンディ（8：30発） ⇒ランチ（車中）⇒スバ（13：00着） 【JICA事務所】JICA次長　ブリーフィング 安全・健康管理・JICA事業について	車中：ブリーフィング ・滞在の注意事項 ・JICA事業概要	
	PM	【施設視察】スバ市役所保健課 （青年海外協力隊：環境教育） →スバ市内不法滞在地区視察 【懇親会】JICA関係者との夕食会	〔環境〕 スバ市の環境問題と対策 JICAボランティア、職員懇談	スバ（ホテル）
8月2日 土	AM	【懇親会】ホストファミリーとの会合（JICA事務所）	〔交流・教育〕(JICA研修帰国同窓会メンバー・フィジーの教員)	
	PM	ホストファミリーと行動(スバ市内見学：市場、博物館など)	フィジーの日常生活、文化体験	スバ周辺 ホームステイ
8月3日 日	AM	【ホームステイ】ホストファミリーと行動	フィジーの日常生活、文化体験	
	16:00	✎ホテルに集合：振り返りミーティング	ホームステイ体験の共有等	スバ（ホテル）
8月4日 月	AM	✈ナウソリ発(7：15) ⇒レブカ　2回に分かれて飛行 【学校視察】レブカ小学校 （青年海外協力隊：現職参加教諭） 隊員授業参観、交流授業、子どもたちによるメケショー 小学校で昼食会、昼食後レブカ散策	〔教育〕離島の教育現場視察、教員・子どもとの交流	
	PM	【学校視察】セントジョーンズ中・高校　交流授業 ✈レブカ発⇒ナウソリ着→ホテル ※2機目は欠航となり、半数がレブカ滞在 スバ到着組、レブカ組それぞれで振り返りミーティング		スバ/レブカ (ホテル)
8月5日 火	8:30- 9:45	【中間報告】JICA事務所にて レブカ組✈レブカ発（7:00)⇒ナウソリ着（7:15)→ホテル	プログラムの前半を振り返り今後の課題を話し合う	
	AM	移動：スバ⇒シンガトカ		
	PM	【NGO活動/環境保護体験】オイスカ・プロジェクト コーラルコースト周辺の環境保護対策：マングローブ植林体験/サンゴ復元デモンストレーション/村人との交流(ヤンドゥア村)	〔環境〕開発による環境破壊 (観光地の課題)	シンガトカ (ホテル)
8月6日 水	AM	【環境保護】オイスカ・プロジェクト(植林プロジェクト)視察 「子どもの森プロジェクト」（オイスカ）　植林地視察＋小学校の先生との対談	〔環境〕開発による環境破壊（観光地の課題）	
	PM	【エコーツーリズム】ロビンソンクルーソーアイランド(リクリ島)	〔環境〕エコツーリズム・デイトリップ	
		【文化体験】ロマワイ村（セブセブ/歓迎儀式、ロボ料理）	〔交流〕文化体験	ロマワイ村 ホームステイ
8月7日 木	AM	【文化体験】ロマワイ村周辺（伝統的手法の塩生産視察）	〔環境〕マングローブ自然林視察、天然塩製造風景	
	PM	【エコーツーリズム】アンバザ村（コロニヤツ・ナショナル・ヘリテージパーク） トレッキング（ガイドウォーク）・ランチ・村の人との懇談 ホテルチェックイン、夕食（自由行動） ✎振り返り＋連絡ミーティング	〔環境〕エコツーリズム・デイトリップ	ナンディ (ホテル)
8月8日 金	AM	【学校視察】ボツワレブ高校　授業参観、交流授業 （青年海外協力隊：現職参加教諭）	〔教育〕野菜栽培	
	PM	【教材収集】市内・マーケット視察	・教材入手	
	夜	✎振り返りミーティング		ナンディ (ホテル)
8月9日 土	AM	✈ナンディ⇒成田（17：00着）	移動	

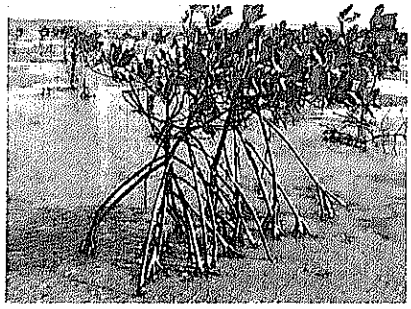
環境問題への取り組み

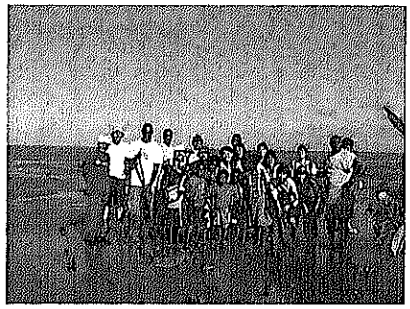

首都スバ


旧首都レブカの町並み

市場の野菜

侵食される海岸。ヤシの木が倒れている。

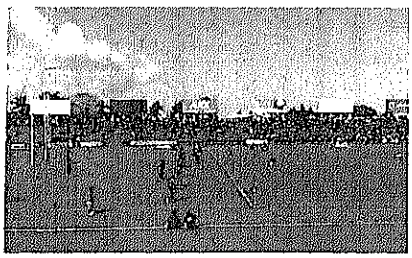

海岸の浸食を防ぐためのマングローブ植林。日本のNGO、オイスカの活動視察。


マングローブとサンゴの植林を体験

市街地でのホームステイ。インド系とフィジー系の教員家庭にお世話になりました。

村でのホームステイ

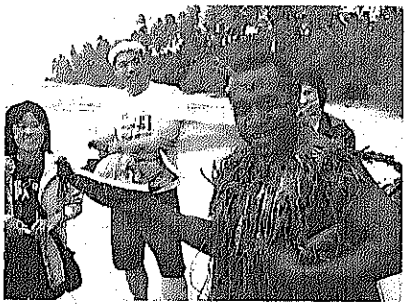
ホストファミリーの朝食


ホストファミリーと人気スポーツのラグビー観戦をした参加者もいる

ホストファミリーの親戚の結婚式に参列した参加者も

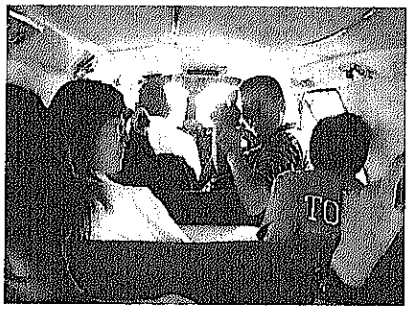
ステイ先で食事の準備の手伝い

エコツーリズム体験①
ロビンソンクルーソーアイランドに到着

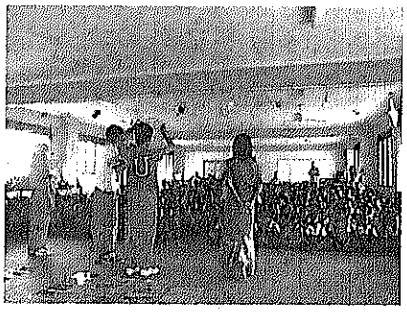


フィジーの「岡村さん」。とても楽しいツアーガイド。

バケツシャワー。島では貴重な水を大切に使います



離島へは、8人乗り飛行機でピストン輸送。帰りの便が欠航になり、メンバーが離れ離れで一夜を過ごすことに。



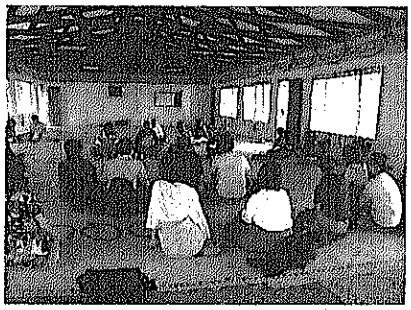
青年海外協力隊が活躍しているレブカ小学校での交流授業。1クラスで実施の予定が、全校生徒が集まっていてびっくり。

ロマワイ村で伝統ダンス・メケを披露してくれた高校生たち

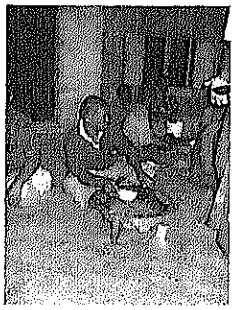
青年海外協力隊が野菜作りを教えているポツワレブ高校

セントジョーンズ中等学校で、日本の文化や生徒の生活の紹介をして交流。

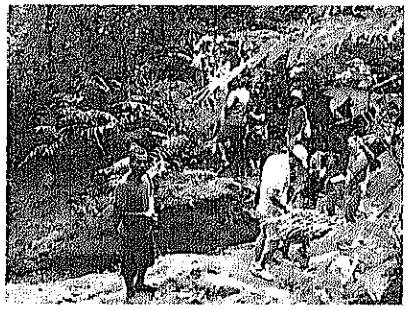
スバのスクウォッター（不法居住区）を視察。ここでも青年海外協力隊が環境面の支援活動を行っている。



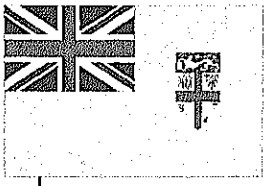
歓迎の儀式セブセブ。訪問の度にこの儀式を体験。服装や順序に作法があるが、何度も体験するうちにすっかり慣れた。



セブセブで振舞われる飲み物「カバ」。掛け声や手拍子をして一気に飲み干すのが礼儀。



エコツーリズム体験②
アンバザでのトレッキング。日本の支援も受けてエコツーリズムが進められている。



「国際協力を日本の文化に」を考える「フィジーについて探求しよう！」

Fiji Islands

山田 勝之
東京都足立区立第四中学校

●担当教科：社会科
●実践教科：①総合的な学習　②選択社会科
●時 間 数：①6時間　②3時間
●対象生徒：①中学1年生　②選択社会履修生徒
●対象人数：①227名　②34名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

Ⅰ「国際協力を日本の文化に」を考える

世界には、日本よりも経済的に貧しい国や問題を抱えている国がたくさんある。そのような発展途上国が抱える問題を解決するために国ではODA、民間ではNGOを通じて国際協力を行っている。国の人的・技術的協力がJICAで行っている「青年海外協力隊」や「シニア海外ボランティア」などである。身近な地域に住んでいる人のなかにも青年海外協力隊で国際協力に参加する人がいることを知り、その人を通じて生きた国際協力を理解させ、より身近に感じると共により良い国際協力のあり方を考えさせる。

Ⅱ「フィジーについて探求しよう！」

フィジーという国について、様々な方法や多角的・多面的な見方・考え方により、探究することを通して、その国の特色を理解するとともに、その探究方法を他の国に関しても活用できる能力を養うと共に、各国の文化や習慣を尊重する意識を身につけさせる。

〔2〕授業の構成Ⅰ

<教科名：総合的な学習の時間>

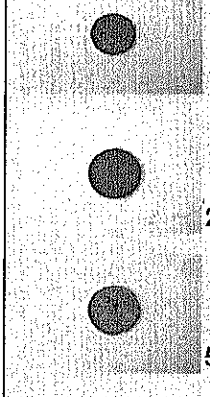
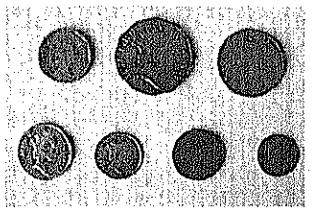
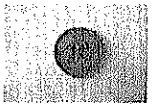
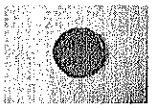
①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時間目（総合的な学習の時間を2コマ続けて）9/22実施 ②「国際協力」って知ってる? ③フィジーの概要を知り、その国で活躍している人（国際協力に携わっている人）がいることを知る。	①パワーポイントを使用し、フィジー紹介 ○夏休み前の生徒アンケート結果紹介 ・フィジーという国を知っていますか？ ・フィジーの場所はどこですか？ ・フィジーについて地図帳で調べて。 ・フィジーについてのイメージ。 ○フィジーの自然、民族の紹介 ○研修中の日程に従って、体験を通し生活・習慣・文化とフィジーで活躍している日本人を紹介 ②DVDを使用し、上記で紹介したフィジーで活躍している日本人の方々のインタビューを見せ、国際協力の様子を伝える。 A　太田さん（青年海外協力隊員）レブカ小学校 B　八尾さん（青年海外協力隊員）スバ市役所 C　宗像さん（NGO／オイスカ調整員）シンガトカ D　西岡さん（青年海外協力隊員）ボツワレブ高校 ③来年から青年海外協力隊員として派遣される予定の浅水氏を紹介する。青年海外協力隊派遣前訓練へ参加する直前に来校。	①パワーポイント…研修メンバーが制作したものをアレンジしたもの『「国際協力」って知ってる？～研修報告を兼ねて～』 ・アンケート結果→〔6〕 ・フィジーの国旗 ・フィジーの地図 ②DVD…研修メンバーが撮影、編集したもの『フィジーで活躍する日本人』

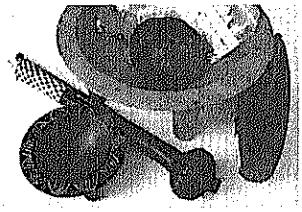
①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
<児童・生徒の反応>	・豊かな自然や文化の違いに驚いていた。・自分たちの予想よりも、フィジーが豊かな国だと感じていた。・国際協力のために、フィジーで活躍している日本人が思ったよりたくさんいることにびっくりしていた。・自分たちが住む地域に「国際協力」に貢献する人がいるということで身近に感じていた。	
①2時間目（9/22 実施） ②「国際協力」ってなんだろう？ ③国際協力とは何か知り、国際協力の方法や必要性について知る。	○青年海外協力隊として派遣予定の、身近な地域に住む浅水氏の協力により、「国際協力」を伝える。 ①なぜ貧しい国が存在するのか？ ②「国際協力」とは、貧しい国の自立をめざすこと。 ③ＯＤＡは日本の税金で行われている。 ④昔、日本も国際援助を受けた。 ⑤国際協力は必要不可欠である。	○パワーポイント…浅水氏が制作したもの。→〔6〕 ○ワークシート１→〔6〕
<児童・生徒の反応>	・国際協力とは概ねどんなことが知ることができた。しかし、初めは日本の税金を外国のために使うことについて多くの生徒が疑問をもっていたが、戦後日本も外国からの援助を受けたことにより発展したことを知り、恩返しなんだから当然するべきであると思うようになった。	
①3・4時間目（12/19 実施） ②「国際協力」しよう！ ③国際協力の一つである青年海外協力隊の実態について派遣前訓練などを通して興味、関心を高めさせる。	○青年海外協力隊派遣前訓練を終えた浅水氏の講義。国際協力をする準備を伝える。 ①前回の復習 ②派遣前訓練の様子 ③クメール語の体験 ④カンボジアの紹介 ○浅水氏壮行式	○パワーポイント…浅水氏が制作したもの。 ○ワークシート２（３・４時間目共通）
<児童・生徒の反応>	「前回よりもっといろんなことが知れてとても良かったです。また、浅水さんがカンボジアから帰ってきたらいろんなお話を聞かせてほしいと思います。」「今回の授業で青年海外協力隊のことに興味がわいてきたので、新聞とかもよく見てもって青年海外協力隊のことを知りたいと思います。」などのより深まった感想が多くあった。	

※①時限　５・６時間目については、浅水氏が帰国後（現生徒が３年生になった１月頃）に実施予定。
②テーマ　「国際協力」してきましたよ！
③ねらい　実際の青年海外協力隊員の活動を知るとともに国際協力の本来あるべき姿について考える。

〔2〕授業の構成Ⅱ

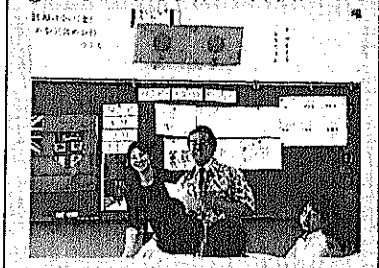
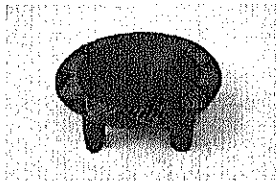
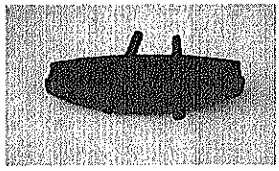
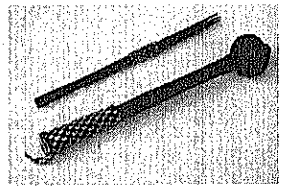
＜教科名：選択社会科（１年）＞

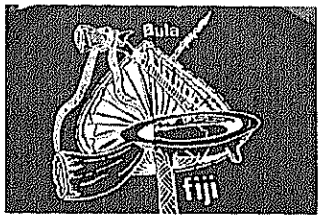
①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時間目 ②硬貨（コイン）から見えるもの・見えること！ ③コインからフィジーの歴史や文化について考える。  1C硬貨 2C硬貨 5C硬貨	①フィジーの簡単な紹介をする。 ＜班活動＞ ②各班にフィジーで使われている硬貨（コイン）を配布し、気が付いたことを発表させる。 ＜予想される生徒の回答＞ ○表面から ・すべて同じ人が描かれている。→エリザベス女王→昔、イギリスに統治されていた。という歴史的な背景を理解させる。 ・国旗で確認→他にもユニオンジャックが付いている国を探す。 ○裏面から 各コインのデザインのイラストをワークシートに描かせる。その上でそれぞれのデザインは何か考えさせる。	○ワークシート３→〔6〕 ・フィジーのコイン（表面）  １＄硬貨　５０Ｃ硬貨  ２０Ｃ硬貨　１０Ｃ硬貨 

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
<児童・生徒の反応>	・表側に同じ顔が描かれていることについてはすべての班で認識できた。・エリザベス女王については知っている生徒は少数であった。・イギリスの植民地であったことを数名の生徒は気が付いた。	
①2時間目 ②コインから見つけた文化・習慣に迫ろう。 ③コインから見つけたイラストからその国の文化や習慣を知り、体験する。	①班対抗で、各コインのイラストが何か考えさせ、各班で話し合わせ、発表させ、競わせる。 ②１Ｃから順に道具を使い正解と解説を行う。 ③１Ｃに描かれているタノアに注目し、タノアを使ったセブセブ（カバ）という儀式をＤＶＤで視聴する。 ④実際にセブセブを体験する。 ⑤セブセブについての感想をワークシートに記入させる。	道具の一例 
<児童・生徒の反応>	・クイズ形式、班対抗で行ったので、かなり盛り上がった。・硬貨のデザインと同じものを見せたのでかなり生徒の興味・関心は高まった。・フィジーの文化や習慣を感じさせることができた。・カバの試飲に感動していたが…。	
①3時間目 ②その国の文化や習慣を尊重しよう！ ③各国の習慣に対して尊重する意識を身につけると共に、いろいろな考えがあることを知る。	①前時に記入したセブセブに関する感想をまとめたプリントを読ませる。 ②自分と同じ考えや違う考えの感想をチェックさせ、感心させられる感想にも印を付けさせる。 ③それぞれ分析した上で、意見交換をする。 ④話し合いの後でそれぞれ自分が感じたことを発表させる。	○感想をまとめたプリント→〔6〕
<児童・生徒の反応>	・カバの味に関する感想は、多くの生徒はあまり美味しくなかったようである。ただ、セブセブという儀式については尊重する意見が多く、伝統を継承していることが素晴らしいと書いている生徒も数人いた。他の生徒の意見に対して、しっかり自分の意見を言える生徒が増えた。	

〔3〕詳細説明

授業の構成Ⅱ　<教科名：選択社会科（１年）＞２時間目

学習内容	学習活動・(指導上の留意点)	使用教材
①硬貨（コイン）のイラストからフィジーの文化・習慣を考える ②イラストから考えることについて意見交換をする ③いろいろな文化や習慣がある  正解発表と解説風景 ④セブセブという儀式を知る ⑤セブセブを体験する ⑥セブセブ体験やフィジーの文化・習慣についての感想	①前時に記入したコインのデザインのイラストを見ながら、それぞれは何を表しているのか考え、ワークシートに記入する。 ②「班対抗クイズ大会」形式で実施するので、それぞれのイラストは何を表しているのかを各班で話し合い、班の答えとし、一つに絞り用紙に記入し、発表する。 ③それぞれのデザインの答えを聞く。（ミニチュアの現物や絵、写真などを見せながら、分かりやすく説明する）＜１Ｃから順に正解と解説を行う＞ ・１Ｃ…タノア（カバの溶液を入れる木製容器） ・２Ｃ…イリ（椰子の葉の団扇） ・５Ｃ…ラリ（木製打楽器） ・10Ｃ…ナイワウ（戦闘用こん棒） ・20Ｃ…タンブア（マッコウクジラの歯で作った装飾品で、結婚式で男性側の結納にかつては用いられた） ・50Ｃ…ワンガワカラバ（帆船） ・１$…サンガモリ（古い素焼きの水入れ）	○ワークシート１ タノア  ラリ  ナイワウ 

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	④１Ｃに描かれているタノアに注目しセブセブ（カバ）とはどんな儀式なのかをＤＶＤを視聴する。 ⑤各班の代表者数名と希望者は、実際にセブセブ体験をする。カバを飲む。 ⑥セブセブという儀式やカバを飲んだ体験や体験した人の様子などを見てワークシートに感想を書く。	イリ・タンブア・タノア 
<児童・生徒の反応>	・クイズ形式で班対抗で行ったので、かなり盛り上がった。硬貨のデザインと同じものを見せたのでかなり生徒の興味関心は高まった。フィジーの文化や習慣を知ることができた。	

〔4〕成果と課題

授業実践のテーマⅠ

生徒たちにとって地域に住む浅水さんの話は、身近に感じ、青年海外協力隊員に関することを中心とする国際協力についての理解が深まった。また、実際に派遣されるための訓練や出発直前に話を聞けたので、興味・関心も高まった。現地でどのような活動をするのかについて、２年後に帰国したら、また話を伺いたいという感想を書いていた生徒が大勢いた。

現時点では受身であり、素直に受け止めているが、より良い「国際協力」にしていくためには、多角的・多面的な見方・考え方を養わせ、現実と照らし合わせて、自分のこととして考えられるように育ていく必要がある。

授業実践のテーマⅡ

フィジーの学習に現地で使われている硬貨（コイン）を利用したことは、生徒の興味・関心を高め有効であった。共通点を探させたり、それぞれのデザインを写させたりする作業に加え、考えたり、話し合ったりすることは、他人の意見も聞けて良い効果を生んだ。生徒の中には「他の国についても調べてみたい。」という感想もあった。班対抗のクイズ大会形式にしたので大変盛り上がり、フィジーの文化や習慣にたいして、自然に受け入れられる姿勢で取り組めた。

セブセブ（カバ）の体験はＤＶＤを見てから行ったので、不安を持ちながらもまじめに取り組むことができた。味については閉口する生徒が多かったが、カバと言う儀式に関してはほとんどの生徒が尊重し、継承されていることを素晴らしいと思っており、日本でもそうしなくてはいけないこともあるだろうと、自分のことと自分の国のこととして考えられる生徒もいたことは良かった。

今回の教材として使用した画像（パワーポイント）や動画（ＤＶＤ）は、研修に参加したメンバーのデーターを集め、鈴木氏や羽生氏に編集していただいたものである。このようなメンバーに恵まれたからこそ実践できたので、今後の研修にも今回のような連携とチームワークが重要であることを申し送りしたい。

<参考>

12/19に実施した授業（青年海外協力隊の派遣前訓練を終了した浅水氏の授業）は、東京ＭＸテレビと読売新聞社の取材があった。当日、夕方のニュースで３分間程度授業風景が放映、足立よみうり新聞と読売新聞（江東版）に掲載される。「国際協力」をより多くの人に理解してもらうためには、青年海外協力隊員として派遣される人と連携をし、自分たちの身近にも国際協力に貢献する人がいることを地域の学校を通して広める必要性を感じる。どこの学校でも授業を実施できるようになれば「国際協力を日本の文化に」の理想に少しずつ近づける気がする。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

○パワーポイント…『「国際協力」って知ってる？～研修報告を兼ねて～』『国際協力ってなんだろう！』『国際協力しよう！』

○ＤＶＤ…『フィジーで活躍する日本人』『セブセブ（カバ）という儀式』

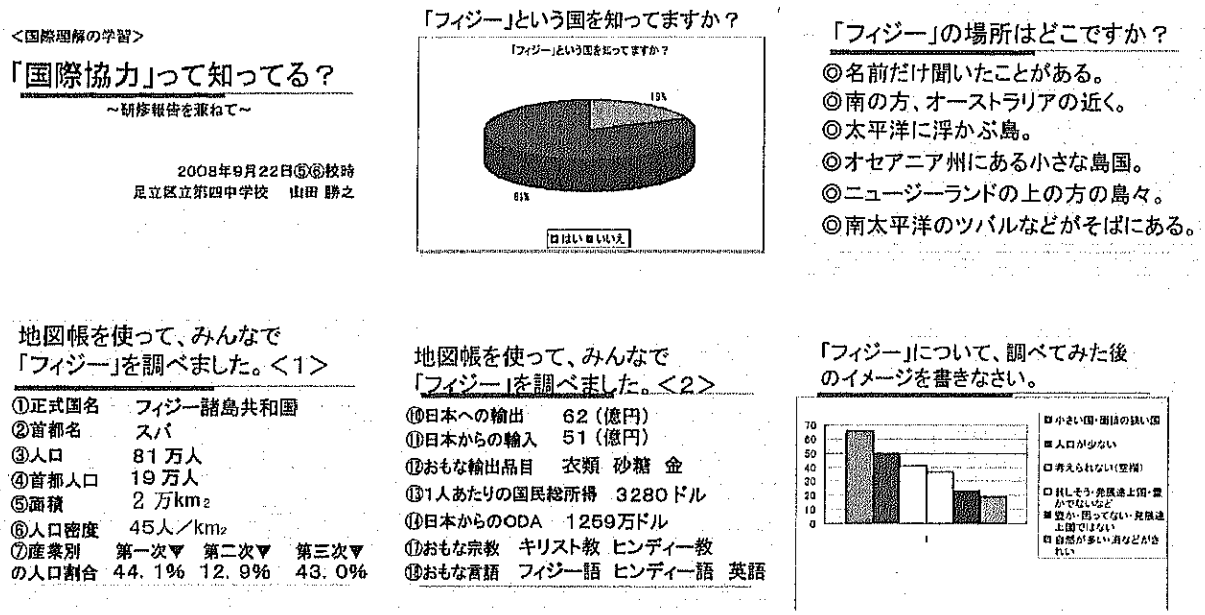
○マダム見聞録　№５フィジーの村事情＜ http://jicr.roukyou.gr.jp/publication/2004/147/147-fujii.pdf ＞

○Ｍさんレポート「フィジー便り　第８巻」その１　フィジーの通貨事情＜ http://www.yumeiro.info/m/014/014.html ＞

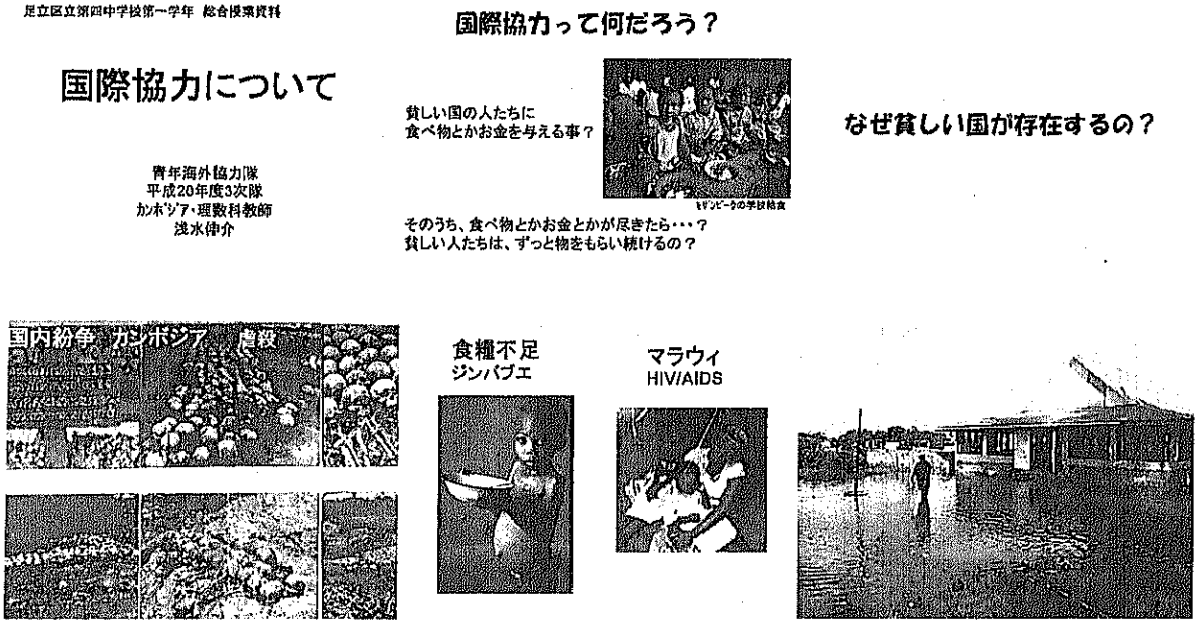
〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

授業の構成Ｉ　　＜教科名：総合的な学習の時間＞

○パワーポイント『「国際協力」って知ってる？～研修報告を兼ねて～』　の一部



○パワーポイント『国際協力ってなんだろう！』（浅水氏制作）　の一部



国際協力とは

・国と国との助け合い
・特に豊かな国が貧しい国を助ける事を言う
・貧しい国の人たちが自立するためのお手伝いをすること

日本ではJICA(ジャイカ)が中心となって国際協力を行っている。

Japan International Cooperation Agencyのこと
日本　国際　協力　機構

また、主にJICAは

ODA(Official Development Assistance)と言って
政府　開発　援助

日本のお金(税金)や技術を使って、貧しい国々を助けている。

なぜ日本の税金（私達が払ったお金）を海外のために使うの？？？

実は
私達の日本だって戦後の貧しい時代は、
世界からのODAを受けていた。
↓
世界からの援助で
日本は現在のように発展した。

授業の構成Ⅰ　授業の構成Ⅱ＜教科名：選択社会科（１年）＞

○ワークシート１

※浅水伸行さんのレクチャーを聞きながら、記入しよう！　浅水です。

1　なぜ、貧しい国が存在すると思いますか？

<わかったこと>

2　日本の税金を他の国のために使うことをどう思うか？

<わかったこと>

3　浅水さんの話を聞いて思ったこと、感じたことを自由に書きなさい。

1年＿＿組＿＿＿番 名前

○ワークシート３

1年第四日目　　1年＿＿組＿＿番 名前

フィジーについて調べよう！①

<1>フィジーの概要（ロイン）を見て、気がつくことを書き出しましょう。

<2>それぞれのコインに何を見るのかな。

時間	イラスト	自分の予想 / 実際の予想と相違	感想
1 min			
2 min			
5 min			

時間	イラスト	自分の予想 / 実際の予想と相違	感想
30 min			
20 min			
50 min			
1時 (1/31)			

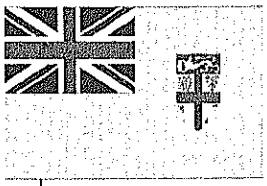
<3>感想

授業の構成Ⅱ　＜教科名：選択社会科（１年）＞　○カバの感想

フィジーの儀式　セブセブ（カバ）を体験したみんなの感想

※みんなのそれぞれの感想を読んでみよう。感想や意見を自分なりに評価してみよう。
（問答・興味ありとかＡＢＣとか◎○△×など、自分なりのつけ方で）

1　カバはちょっとおいしくなかったけど、フィジーではカバが大切な飲み物だから、僕らもこういう伝統が日本にもあればいいなと思った。
2　フィジーの人は儀式をやって、カバを飲む習慣を続けていてすごいと思った。
3　カバを飲む習慣があるのはすごいことだと思います。ただ、あの飲み物は嫌です。
4　カバを飲む習慣があるからこそ、肌が濃いのだと思いました。
5　私たちとは違って、伝統を守っているので、とても昔を大事にしているのだと思いました。
6　日本人がカバを飲んでおいしいと感じる人は、少ないけど、フィジーの人はカバを、普通に飲んでいるから、国によって、食べ物をおいしいと思うのはそれぞれだなと思った。
7　カバを儀式などで出すのは出される人は飲んでいて嫌にならないかと思う。
8　カバという飲み物を飲んでみてちょっと苦手な味だったけど、フィジーの人達は習慣として飲んでいることを知り、「よく習慣として、何回も飲めるなあ」と思いました。そして僕は日本で習慣として飲んでいるものは、フィジーの人も飲めるのかなあと思いました。
9　カバを飲んでみて、さっぱりしていたが、後味がなんだか悪かった。これを飲む習慣があるということで、日本と同じように文化があり大事にしていると思った。
10　カバを飲んだんですが、最初は何も言えませんでした。あのようなものは日本ではないと思いますが、フィジーの中では習慣だということを知りました。私だったらあのようなものを１日に何回も飲めません。日本人はこう思う人が多いと思いますが、フィジーではとても大切なものとして、今なお続けられています。フィジーにしかない習慣があり、良いなと思いました。
11　カバを飲んでみると不思議な味がしました。まずかったです。でも、フィジーの人たちはまずいといわずに飲んでいることがすごいと思った。
12　フィジーにも昔から伝わる伝統があることがわかりました。日本との共通点などがあるか、調べてみたいです。
13　伝統を次の世代に繋り組いでるんだと思いました。
14　とても昔から続いているのはすごいなあと思いました。そして大切にしているそうなのでもっと続いていってその文化を大事にしてほしいと思った。
15　あんなのをよく飲めるなと思った。
16　フィジーの人はカバを飲んでいるようだが、本当においしいと思って飲んだいるのか疑問に思った。
17　私たちがジュースを飲むのと一緒で、フィジーの人たちにとってカバとは大切な飲み物なんだなと思いました。
18　カバは見た瞬間に飲みたくないという意識を持ってしまったのですが、それを飲む習慣が続いているのがすごいと思った。体が良くなりそうだった。
19　世界の国々で使っているお金のからは１つ１つ違うので、将来、いろいろな国に行って、いろいろなお金を見て楽しみながら、旅行などをしたいと思います。
20　あのますそうな水？みたいなのを習慣として飲んでいるなんて、とても信じられません。見た目からしてとても飲むことのできないほどまずそうな水を一飲むのが本当ない信じられませんでした。他の国の習慣も調べてみたいです。
21　どうしてあんなにまずくても何回も飲むのか。
22　なんであんな飲み物をあげるのかはよくわからないけど、来た人に何かをもてなすことはいいことだと思った。
23　昔はあの飲み物もおいしいものだったのかなと疑問に思いました。日本にもこういう習慣は続いているのだろうか？
24　カバっていう飲み物は土の色をしていてすごくまずそうだった。
25　土の色をしていたまずそうだった。
26　伝統なんだなと思った。でも何でわざわざ飲むのかと思った。
27　あのカバを飲む習慣はあり得ないと思いました。ドロ水みたいな味であんなのをたくさん飲んでいるのは、すごいと思いました。もう飲みたくないです。
28　何でこんな物を飲んでいるのか？　おいしかった。
29　なぜ、こんな物を飲んでるのかが僕にはわからない。
30　私は飲む習慣がすごいなあと思いました。それだけカバを大切にしてるんだなあと思いました。
31　習慣はよいことだと思った。
32　日本人にとってはちょっとひくようなものを、大切にしてるということは、とてもすごいと思う。
33　まずかったが、昔からある習慣だからよいと思う。
34　苦みたいな味で、さっぱりおいしかった。色からするとあまり飲みたくないのに、受け継がれていることにおどろき、イギリスの植民地なっていたのに続いていてすごい。



環境問題から考える国際協力

Fiji Islands

楢府 暢子
東京大学教育学部附属中等教育学校

●担当教科：家庭科
●実践教科：総合的な学習
●時 間 数：4時間
●対象生徒：中学3年生、高校1年生
●対象人数：10人

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「環境問題から考える国際協力」

◎国際援助の必要性を環境の側面から考える
◎政府、NGOなどの活動を知る
◎自分たちでできることを考え、実行する

今回は、フィジーで生活する様々な人々と直接触れ合うことが出来たので、自分たちとは別の人と考えがちな生徒たちへ、同じように日々の生活をする人としての共通点、関係性を重視しながら授業を進めたいと考えた。

〔2〕授業の構成

<教科名：総合的な学習>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限 ②フィジーを知ろう ③フィジーの概要を理解するとともに、フィジーについて考えるきっかけを与える。	(0) 日本の国際援助についての意見を聞く (1) フィジーのイメージを聞く (2) フィジーの概要を写真やクイズを通して理解する (3) 観光地としてのフィジーや研修での体験を紹介する。	写真、パワーポイント、地図、ガイドブック
<児童・生徒の反応>	(0) 授業に入る前に、生徒の意識を知るために行った。生徒の国際協力に関する意見分布では、金額が多すぎというものが半数以上で、もっと積極的に行うべき？という選択肢については、日本国内のために使うべきとしてほとんど賛成者がいなかった。金額の割りに発言力が少ないという意見もあり、だから協力も少しでよいという考え方につながっていた。 (1) ～(3) 写真などは興味を持って見ていた。美しい写真を見て、行ってみたいという生徒も多くいた。しかし、クイズの結果から考えるとリゾート地という漠然としたイメージはあるもののフィジーについてきちんとした知識を持っている生徒はほとんどいなかった。	
①2時限 ②フィジーの生徒からのレターを読もう ③フィジーの高校生の考え方やフィジーの様子を理解し、自分たちの生活と比較する。	(1) 研修前に生徒が書いたフィジーの生徒へのレターの返事を渡す。 (2) それぞれの内容を翻訳する。 (3) 全員で発表し、フィジーの生徒がどのような夢や考えを持っているか、フィジーがどのような国として紹介されているかを全体で共有する。	フィジーの生徒からの返事
<児童・生徒の反応>	(1) 自分たちの書いたレターに返事が来るという実感がなかったので、一様にうれしそうだった。 (2) しかし、実際に生徒の書いた文章を訳すにあたって、まず、読みづらさに戸惑っていた。また、訳すために非常に時間がかかった。 レターをもらったうれしさよりも疲れの方が強く表れていた。 (3) フィジーの高校生が医者、教師、看護婦など具体的な夢をはっきり書いていたこ	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	とや、大切なことに勉強という言葉があるのに驚いたりしていた。また、フィジーの紹介からは、気候も人も温かいよいところというイメージが強まったと思う。	
①3時限 ②開発と環境の関係を考えよう ③観光開発とフィジーの環境、人々の暮らしの共存について考える。	(1) もし、自分がフィジーに招待されたら、どんなことをやってみたいか、どう過ごしたいかをあげ、書き出してみる。 (2) そのためにどんな施設や設備、企画がほしいかを考える。その後、自然を守るためにどうしたらよいかを考える。 (3) 観光開発と自然を守ることとのギャップを元来のフィジーの暮らしも参考にしながら、考える。 (4) フィジーの将来について未来予想図を使って考える。	ポストイット A3の紙 パワーポイント A4プリント*
<児童・生徒の反応>	(1) 海でのんびり過ごしたいという希望が多かった。 (2) 自分たちが楽しく過ごすために考えたグループは、観光パンフレットのうたい文句のような立派で贅沢な施設を望むものが多かった。一方、自然を守るためについては、抽象的な言葉が多かった。 (3) ホームステイをした村の様子を見直したり、椰子の木の全てを活用する自給自足的な伝統的生活の側面を紹介したが、自分たちには無理という考えが多かった。また、ゴミ処理の状況などの写真を見て、日本人との感覚の違いや差し迫った現実として環境保持の必要性に気づいた生徒はいた。 (4) フィジーの未来予想図では、今以上にリゾートとしての美しいフィジーがあることが望まれていた。また、人々の心の変化に触れたものもあった。	
①4時限 ②国際協力と自分たちができること ③フィジーの環境を守るために行われている取り組みを知り、国際協力の意味を理解するとともに、自分たちの生活の中で出来ることを考える。フィジーためにに行われていることも自分たちのために行っていることもつながっていることに気づく。	(1) フィジーの環境を守る（未来予想図のこうなってほしいフィジーにつながる）ために行われている活動（青年海外協力隊、NGO、JICA、ロビンソンクルーソーアイランドとアンバサ村のエコツーリズム）を知る。 (2) 自分たちが協力できそうなことを考え、まとめる。 (3) 自分たちの日本での毎日の生活が、フィジーの人々につながっていくことに気づき、身近な生活の中で環境にやさしい生活の実践を出し合う。 (4) つながりマップを完成させながら、「地球にやさしい生活」の意味を見直すとともに、国際協力の必要性を確認する。	写真、DVD 付箋 つながりマップ 3時限目に使った未来予想図、模造紙、付箋、マジック
<児童・生徒の反応>	(1) 名前を聞いたことがある者もいると思われるが、様々な立場の人たちが、様々な視点から様々な方法で関わっていることに気づいたり、内容を具体的に理解したりする。 (2) 「募金」「バザーをする」など日ごろ生徒が行っている活動は出てくると思われる。 (3) こちらからの誘導が必要と思われるが、詳細説明に記したように日々の生活のひとつひとつが、環境問題やフィジーの人たちの暮らしにつながり、最終的には、フィジーを訪れた時に楽しく過ごせる（自分たちのためにもなる）ことにつなげる。また、ボランティアの活動は自分自身のためにもなることに気づく。 (4) つながりマップ作りを通して、フィジーの人たちへ協力するという国際協力の活動の必要性やそれが、個人、世界、将来にとってのメリットになることを模式的に理解する。	

〔3〕詳細説明

第1時限目

授業の前に生徒の意識を知るために国際協力について生徒がどう感じているかを質問してみた。ODAの予算として7000億円ほどが年間使われていること、国連への拠出金が米国に次ぐ第2位であることなどの現状をどう思うかを聞いて見ると、10人中「減らす」と答えた生徒が7人、「今ぐらいでよい」が1人、「わからない」が2人であった。同じ質問を高校2年生65名に行ったところ、「減らす」が51名、「今ぐらい」

が10名、「わからない」が4名であった。理由としては、国際協力の意味がわからない、自分たちのことを優先させたいといったものが多かった。国際協力の意味を考えさせる必要があることが、はっきり示された結果だった。

次にフィジーのイメージであるが、「南の島」＝「常夏」「海」「さんご礁」「ビーチ」といった一般的な答えが出てきた。

フィジーの概要では、まず、3つのクイズを出した

Q1: フィジーはどこにありますか？

①南アメリカの方　②アフリカの方　③オーストラリアの近く

Q2: 5枚の写真のうちフィジー人はどれ？

①カラユ族（エチオピア）　②観光用の昔の姿をしたフィジアン

③フィジー系フィジアンの中学生　④インド系フィジアン　⑤ロマワイ族

Q3: 穴埋めをしてください。

①8月の平均気温は日本の夏よりも（　　）

②公用語は（　　）

③国土の大きさ（1万8,333km^{2}は、日本の（　　）と同じぐらいの大きさ。

④人口は、（82万・150万・700万）人

いずれも正答率は低く、「カンが当たった」という様子だった。

その後、気候や人口、歴史、産業、生活などについて写真をプロジェクターで写しながら説明した。私たちが、体験したホームスティの様子や学校の様子には、驚きや質問がいくつもでてきた。また、ホテルライフ、プライベートビーチ、海、フィジー料理、インド料理、メケショー（伝統的ダンスショー）、フィジー体験など観光地としてのフィジーも紹介した。

第2時限目

研修へ行く前に生徒たちへその旨を話し、フィジーの高校生にレターを書いてもらっていた。内容は自分のプロフィールと日本の何かについての簡単な紹介文である。レターの半分は同じ項目でフィジーの高校生に答えてもらう予定であった。

予定通り、最後に訪問したボツアレブ高校の生徒に書いてもらうことが出来たので、それを生徒に返した。自分たちの書いたレターに返事が来たということには、感激してくれたが、実際に読むとなると彼らの文字を解読することに苦戦していた。日本人にはない文字の癖や省略、個人差などに、大変戸惑っていた。自分たちの字が『汚い』、『癖がある』などと言われていても、『読めなくはない』と気を留めていなかった生徒へ「やっぱり字は相手のためにも読みやすく書いた方がいいね。」と言ってしまったが、今回に関しては反論がなかった。

最後に、自分へのレターの内容を発表しあった。雰囲気的には、訳すのに疲れたという様子が強く、もう少しフィジーの高校生に興味を持ってほしかったというのが、私の感想である。フィジーの子どもたちが、はっきり将来何になりたいと書いてある（結果としてかもしれないが）のに対し、日本の生徒たちは、あまりはっきりとした目標はなく、『とりあえず大学に行って、就職』という辺りをどうとらえていくか、今後の課題と思われた。

第3時限目

まず、もしフィジーへ招待されたら、どんなことをしたいかをポストイットに3～5個書いてみんなで発表した。その結果は、『ホテルでのんびり』や『海を楽しむ』、『ラグビー観戦』、『おいしいものを食べる』

などであった。次にそのためには、どんな施設や設備、企画がほしいかを考え、書き出してみた。その後、自然を守るためにどうしたらよいかを考えてもらった。旅行を楽しむためには、観光パンフレットにあるような様々なサービス、誘い言葉が飛び交っているという感じであった。また、自然については、『壊さない』、『大切にする』など抽象的な表現が多く、具体的に何をするという意見は少なかった。

開発に必要な資材、様々な味を楽しむための食材、ホスピタリティに必要な人材などがどこから得られるか、自然を壊さないためにどうすればよいかなど、質問を投げかけながら、授業を進めた。また、自分たちの一見便利で豊かな暮らしと村での生活、物質的豊かさと精神的豊かさなども話の中に織り込んでいった。

最後に未来予想図を書いて終わった。これは、今フィジーでやりたいことをやった場合のフィジーの将来を考えるためのものである。

第４時限目

この授業実践は、今後行うため、授業の流れと方向性について記述する。

（1）今回の訪問先で知ることの出来た４種類の環境に関わる国際協力の活動を紹介する。活動紹介の主旨は以下の通りである。

・JICA の仕事・・・日本が国として関わる国際協力。世界各国、内容も多岐にわたる。

・青年海外協力隊の活動・・国から派遣された日本人が、現地の人とともに活動する国際協力。

・オイスカ・・・日本の NGO の活動。企業や一般の人からの基金で、現地に必要な支援をする。

・ロビンソンクルーソーアイランド・・・環境を考えて行われているリゾートの様子。

・アンバサ村・・・フィジーの村で行われ、日本人も関わっているそのままの自然を楽しむツアー。

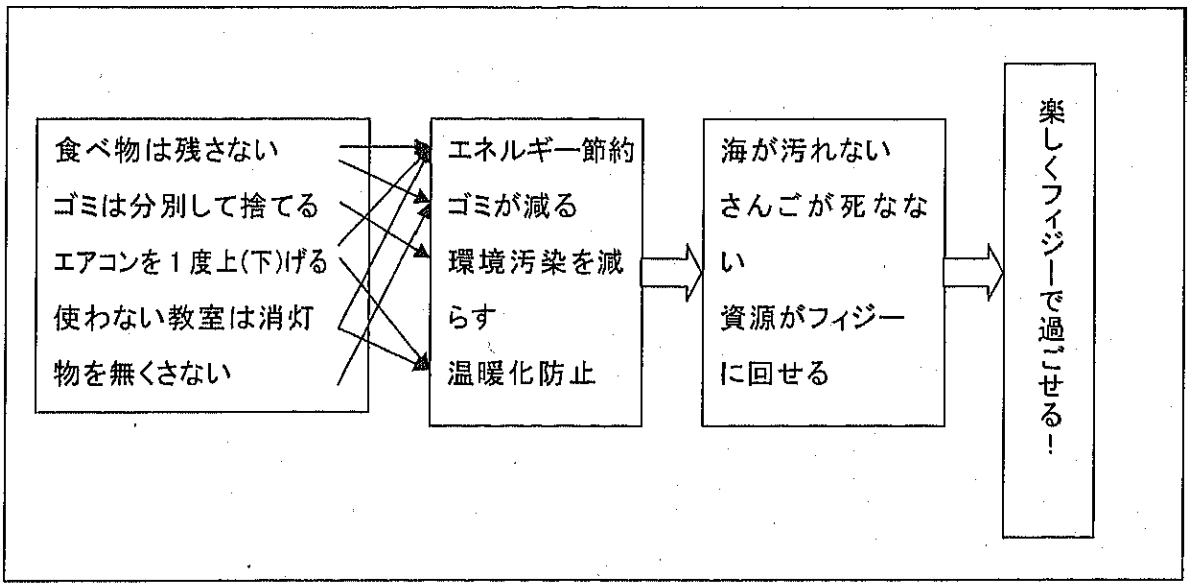
このような活動を通して、国として、団体として、また一個人として国際協力が行われている様子を紹介する。

（2）これらの活動に自分たちが参加する方法を考える。

（3）国際協力のために特別なことをするのではなく、身近なところでできる国際協力を考える。

例えば、「電気をこまめに消す国際協力」という提案などをする。かなり唐突な例とも思われるが、それが資源を節約し、環境を汚さないことにつながっているはずである。そのレベルで、いくつかの環境にやさしい行動を出させ、それを図式化してつなげていく。

（例）



（4）この図に国際協力の必要性をプラスして書き込む。

日本は、環境保全のための技術や知識をたくさん持っている。また、世界的にみて、経済的にも恵まれた国である。その技術や知識を有効に伝えるには人材とそれを支援する資金が必要である。国ごとに異なる状況をつかみ、実態にあった有効な策を提供するために活動を行っているのが、青年海外協力隊やNGOなどである。青年海外協力隊やNGOの人たちが生き生きと活動している様子も振り返りながら、これらの事柄を（3）で書いたつながりマップに加え、国際協力の必要性や環境にやさしい生活の意味を理解し、まとめとする。

〔4〕成果と課題

「エコ」という言葉は子どもたちの生活に浸透しているが、どこまで実行されているか、また、考えて行動しているかは、いつも疑問があった。今回の実践では、「将来」、「世界」とのつながりという視点を、新たに加えたことで、行動に動機を持たせられると思われる。

一方、最終授業はこれからではあるものの、「国際協力を考える」という部分と、「自分たちの生活を見直す」という２つのねらいをもって授業を行っているので、それを結びつけるための誘導をしてしまうのではないかと心配な部分がある。また、これまでの授業では、自分自身が研修によって強く思うことがあったり、実際の様子を知っていたため、生徒の視点から遠くなってしまう時があったと思う。しかも、週１回、２学年共通の選択講座の限られた人数の中で授業で実施をしているため、出てくる意見も限られるところがあった。

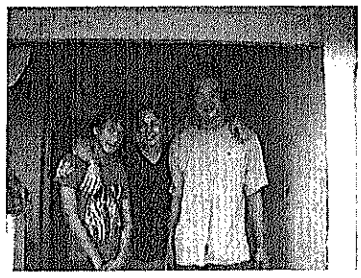
今後は、さらに工夫し、生徒が自ら気づくような問いかけや構成で試みていきたいと思う。また、教科（家庭科）の授業でも使えるよう環境を中心に再構成したり、文化や自給などをテーマに、新たな教材へ活用していきたい。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

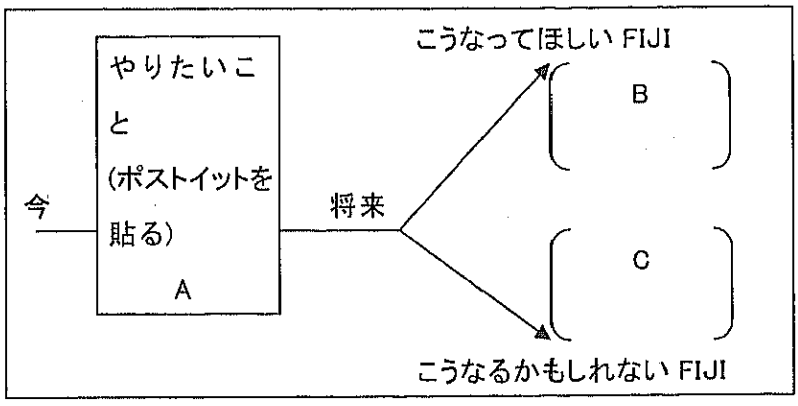
DVD 「OISCA」、2002

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

＜Ｑ２で用いたフィジー人の写真＞（左上段から１，２，３，下段４，５）



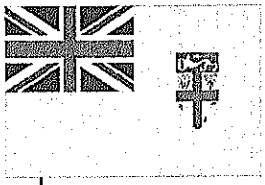
<未来予想図>



A　ホテルでのんびり
海を楽しむ
ラグビー観戦
おいしいものを食べるなど

B　ゆったりしたホテル
ダイビング、シュノーケリング
スタジアム
レストラン、有名シェフ　など

C　治安悪化
自然破壊
チーム消滅
まずい　など



フィジーを通して世界を知ろう

Fiji Islands

鈴木 宏明
東京都私立成蹊小学校

●担当教科：国語科、社会科、学級活動
●実践教科：社会科
●時 間 数：4時間
●対象生徒：小学校5年生
●対象人数：32名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

5年生は、日本の産業と地理を学習する。自国の自然や地理、産業を学習する中で、次第に日本や日本人といったことに理解が深まっていく学年である。一方で、海外の国にも行ったことがあるとか、帰国子女も在学しているので、日本との違いを生活で感じた児童もいる。

今回、担任がフィジー研修で体験したことを伝えていく中で、日本とは違う文化を持つ国、その文化の背景にある歴史や風土を理解し、さらに日本との関係や、国際協力について興味を持たせるような学習を考えた。

〔2〕授業の構成

<教科名：社会科>

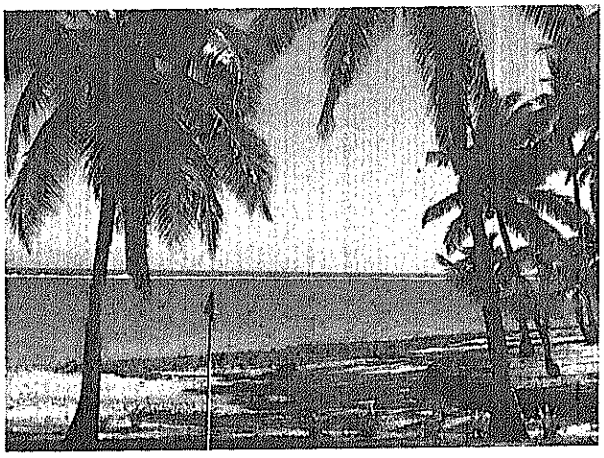
①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限（社会） ②フィジーってどんな国？ ③フィジーの位置を知り、イメージを浮かべて興味を持つ。	①日本の周りの国々をどのぐらい知っているか発表する。 アジアからオセアニアと、地域を分けて整理する。 ②DVDを見て、フィジーという国について知っていること、知りたいことをワークシートに書く。	社会科地図帳 録画DVD『サンゴ礁の楽園フィジー』（BSジャパン）
<児童・生徒の反応>	授業者が夏休み明けにフィジーについて紹介したので、その記憶がかなり残っている児童が多かった。地球儀で南半球にあるフィジーの位置を確認したこともほぼ全員が覚えていた。 島国であることや、日本よりも面積が小さいこと。海や自然の美しさがDVDを視聴して印象に残ったようである。 また、客を迎え入れる時の儀式「セブセブ」についても、たいそう興味を持った。	
①2時限（社会） ②フィジーの基礎情報 セブセブの儀式 ③フィジーの概観を知り、セブセブの儀式を通してフィジーの伝統に触れる。	①参考図書やホームページから調べたデータから、フィジー諸島共和国の概要を知る。 ②カバ（〔3〕写真参照）の粉を煎じて、セブセブの儀式を体験する。	『きみにもできる国際協力⑬フィジー・トンガ・サモア』 外務省ホームページ
<児童・生徒の反応>	さすがに5年生らしく、面積が日本の四国程度とわかると、「じゃ、4つの県が入るぐらいなんだ。意外に大きいな。」などの反応が返ってくる。人口はほぼ世田谷区とほぼ同じと知ると、「やっぱり少ないなあ！」という反応。 人口の話でフィジー系とインド系という独特の構成があることを知ると、英国の植民地であったこととの関連を理解しようとする姿も見られた。 しかし、もっとも子どもが興味をひかれて盛り上がったのは「セブセブ」の儀式である。まず、手で揉んで飲み物を作るということに驚き、何人かは飲むことに消極的であった。 代表委員の児童から順々に飲んでいき、最後には全員が飲むことができたのは幸いであった。同行メンバーの方からお借りした「タノア」という容器がまさに本物で、子どもたちの動機づけをさらに高めたと思われる。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①3・4時限（社会） ②フィジーと日本との関係 ③青年海外協力隊について知る	①フィジーと日本のつながりについて提示して考える。 ・日本とのつながりがどんなことでわかるか。（写真などの提示） ・日本との貿易取引物（外務省ホームページ） ②フィジーで現在問題になっていることは何か考える。 ・フィジー人とインド人の人種構成とその問題 ・ゴミ処理の写真 ・海面上昇に伴う海岸浸食の写真 ③フィジーで活躍する日本人の姿を通して、自分たちにも将来どんなことができるかを考える。 ・フィジーで活躍する青年海外協力隊員の様子（写真の提示、およびインタビューのDVD視聴） ・青年海外協力隊は、どのように派遣されるか。	担当者の撮影した写真 研修メンバーの撮影した写真（スライドショー） 外務省ホームページ 『きみにもできる国際協力⑬ フィジー・トンガ・サモア』 参加教員の撮影した編集DVD
<児童・生徒の反応>	具体的な写真提示がある度に、児童は大きな反応を示した。とくに、１０年以上前の日本の車がほとんどそのまま乗られていることや、色を塗り直さないで走っているタクシーなど、インパクトが強かったようである。再整備されて活躍しているレブカ（旧首都）の消防車などにも、大きなどよめきが起こった。 日本の車がそのまま役立っているという反面、日本ではもう排気ガス規制で乗れなくなったディーゼル車が多く走っていることや、冷媒としてフロンを使えないという規制のために、ほとんどの車がエアコンが効かない状態で使用されているという事実から、「なんでエコな車を送れないのか？」という疑問を発する児童もいた。 ゴミを燃やすというのが日本の常識だが、向こうではそのまま積むというのが普通。燃やすのは、世界的に見てもそう多くはないそうだと説明すると、「どうしてなの？量も減るしきれいになるのに…」と不思議に思う児童が多かった。 フィジー系とインド系の人種構成の歴史を知らせ、現在それが問題になっていることを話すと、「インド人に同等の権利をなぜ法律で与えないのか、不思議」という意見が多かった。 海面上昇については、ツバルのニュースを知っている児童が多く、そのツバルの近くの国ということで関心が高かったようだ。補足として、南極の氷もかなりのスピードでとけているという話をした。島の古老の写真からもその実害が良く伝わったようで、マングローブの植林の意味も理解できていたようである。 青年海外協力隊の活躍の様子を、写真や編集DVDで見ている時は、たいそう興味深げだった。とくに、学級には海外から帰国して編入した児童が数名おり、その子たちの意見は非常に「国際協力」に対して建設的であり、学級全員の児童に大きな刺激となった。 編集DVDの中で、青年海外協力隊員にインタビューをする場面があったのだが、そこで各隊員が派遣された後で自分を見つめ直したり、国際協力を通してその国の人々の暮らしぶりから学んだりしたことを知り、その意義を感じてもらえたようである。 児童からも、「どうやったら青年海外協力隊になれるのか？」という質問が多く出て、授業を通して自ら世界に踏み出していきたいと考えてもらえたのだろうと思った。	

〔3〕詳細説明

１時間目に使用した画像

DVD視聴と合わせてフィジーのイメージがわくように児童に見せた。また、自分がフィジーの小学校で交流授業を行ったことを紹介するために使用した。

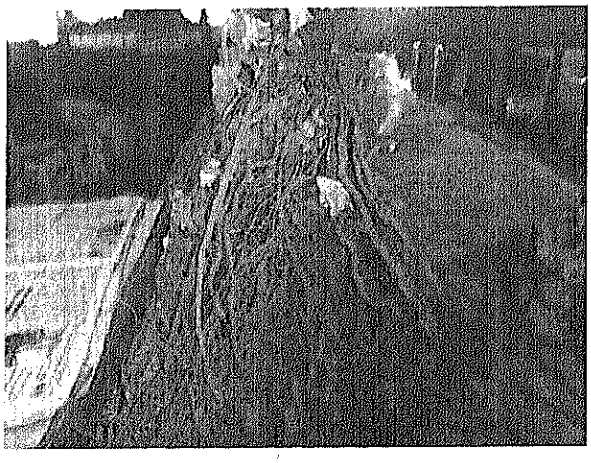


リゾートの美しいビーチ

レブカ小学校で授業をしている担当者

2時間目に使用した画像

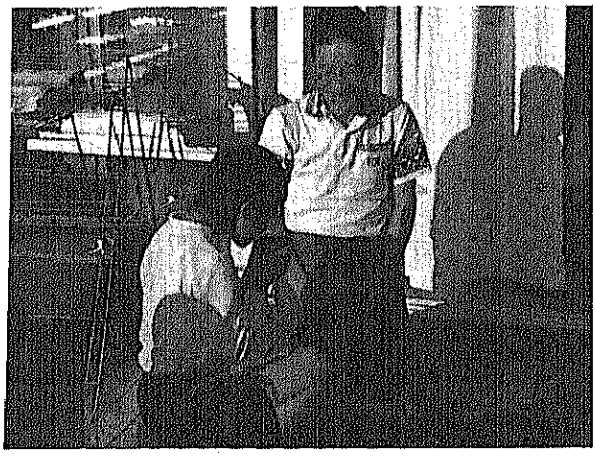
2時間目は、セブセブの儀式を行うため、カバの原料であるヤンゴナの根がどのように市場で売られているか、現地の人はどのように飲む準備をするかを画像で紹介した。



これがヤンゴナの根

カバを手で揉んでといているところ

2時間目の授業風景



～セブセブ～　カバを飲む（1）

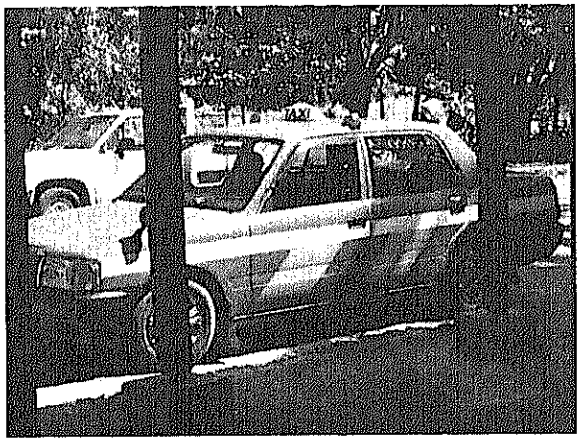
～セブセブ～　カバを飲む（2）

実際に授業でカバを全員が飲んだ。おかわりが欲しいという子もいたが、半数は「何これ…。」という反応だった。しかし、翌日の授業の前に、「またやって飲みたい。」という希望が出て、結局2回セブセブを行った。全員がフィジーの「入村の儀式」を受けたことになるだろうか。

３・４時間目に使用した画像

日本との関連を考えやすいように、フィジーでも目についたものから画像で紹介した。まず、道路を走っている中古車。タクシーは、塗り直しもしていないものもある。産業の紹介として砂糖生産。そしてゴミ問題。日本からの援助で送られた消防車。援助記念の看板など。日本が役立っていると考える子もいれば、もっと良いもの（たとえばハイブリッドカー）を送れないのか、という子もいた。

80 年頃のトヨタ・スターレットが現役



これはまさに日本で走っているタクシー！

満載のサトウキビを運ぶ鉄道

ゴミは積んで山にする

日本からおくられた消防車

日本の企業財団援助を記念する看板